








地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 東わむろふれあい館2	評価実施年月日	H19.9.20
評価実施構成員氏名	中田千恵子 杉山和枝 川端照美 柳原孝輝 鎌田留衣 酒井とし子 鈴木裕子 <div style="display: flex; justify-content: flex-end; gap: 10px; margin-top: 5px;">        </div>		
記録者氏名	中田千恵子、杉山和枝 川端照美、柳原孝輝、鎌田留衣	記録年月日	H19.9.24

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>法人の理念があり、地域の中で定着型サービスを目指して取り組んでいる。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>法人の理念があり、全員で共有しつつ目標等を具体化し、介護につなげるように努力している。理念・ホームの目標をリビング・スタッフルームに掲示し、いつも目につく意識できるようにしている。</p>	○	<p>新人職員にも理念の大切さを伝えていく</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念は見やすい場所に掲示し、家族には契約時に説明をしている。</p>	○	<p>地域においては、浸透されているとは思えない。今後運営推進会議を活用し、働きかけていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩中は職員から積極的に挨拶するよう心がけている。又近くの公園では子供達が遊んでおり、入居者とおしゃべりを楽しんでいる。</p>	○	<p>気軽に立ち寄れることが出来る雰囲気を作り、近所の方々と交流を深めるように努めていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会には加入しているが、町内会自体の活動が少なく、行事には参加していない。</p>	○	<p>町内会の行事に出席できないため参加できるように働きかけを行い、地域の活動に参加したいと考えている。</p>
<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の高齢者についての状況は把握されていない。又話し合いの機会も設けられていない。</p>	○	<p>高齢者について理解して頂けるために話し合いが出来る機会を作りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全職員が理解しているとは思えない。</p>	○	<p>自己評価、外部評価を実施する意識を理解できるよう話し合い、評価を活かした改善に取り組んでほしいよう努力していきたい。</p>
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。 地域住居・利用者家族様から意見要望をいただき話し合いを行なっている。</p>	○	<p>会議での意見等を参考にサービスの向上に努めたい。</p>
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じて連絡をとっているが積極的に取り組んでいない。 必要な場合は出向いて相談することで、質の向上に努めるようにしている。</p>		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護、成年後見制度を学ぶ機会がなく、これから積極的に学習の機会を増していきたい。</p>	○	<p>学ぶ機会を持ち、家族や職員と情報を共有できるよう努めたい。</p>
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待は行なわれてはいないが、その可能性のある事は、日常的な会話の中で認識し、見過ごれることがないように注意をしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>家族に十分説明をし納得を得ている。 また何かあればその都度対応に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>不満、苦情等はスタッフが聞き対応している。管理者にも報告し対応してもらい、利用者が相談しやすい雰囲気を感じている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>月1回 毎月のお便りとして、家族様に利用者の生活の様子や健康状態を報告している。金銭管理については 毎月報告を行なっている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項説明書の中に記載し、又公約窓口を紹介するポスターを貼り、外部者に伝える機会を設けている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回のカンファレンスで話し合いを設けており、その他の日にも職員の要望を管理者に相談し聞いてもらい、運営に反映している。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務調整の体制はできている。行事などでは調整を行なっている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動や離職をする職員が最小限度に抑える努力を行っており、事情がない限り職員のローテーションは行なっていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	会社で実施している研修会には交代で参加する機会があり、研修報告書も作成している。 その他、民間の講習、勉強会の案内は、回覧板により職員全員が閲覧している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者(他のホーム)とは管理者同士が交流し情報交換しており、スタッフにも情報提供されている。	○	今後同業者との交流を持ち、サービスの向上に努めていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日頃の勤務時や会議等で、職員の不満を聞いたり、勤務表作成時に希望休を取り入れるよう配慮している。親睦会の実施もされている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格取得によって、昇給や毎年1回人事選考会があり、昇格などスキルアップに努めている。賞与は評価給に反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	現在の状況、以前に受けていたサービス等の情報をもとに見学や来訪時、ご本人様の不安や要望に耳を傾けている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学や相談時にホーム内の生活に対する不安や経済的な負担などの問題については受けとめている。時には電話にて報告、相談等している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族の思いなど現状を聞き、サービス提供できるかスタッフで検討、他の社会資源等も紹介を含め対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者の生活パターンに応じ馴染めるように配慮したり、利用者同い馴染めるように職員が間に入って徐々に馴染めるよう努めている。初期時は、ご家族に面会の協力を抑ぐ事もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	負担にならないよう配慮し、家事や畑仕事行事など一緒に行っている。又利用者の人生を理解し、お互いの信頼が得られるように努力している。	○	業務の流れにとらわれず"ゆったりと接したい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時 日頃の入居者様の様子を伝えたり外出、外泊した時の様子を何うなどしている悩みや問題を話し合い共感し工夫している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族との関係を理解した上で、よりよい関係を築いていただけるように考え支援している。	○	本人と家族との関係が良好でない方には少しずつ良い関係につながるよう支援をしていくように努力していきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の了解を得て、本人の自宅へ訪問を行っている。その他 馴染みの方には、気軽に来訪していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>31 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>入居者同士の関係を把握しながら、職員が間に入り、仲良く出来るよう対応している。 入居者同士、お茶を入れるなど、交流も見られる</p>		
<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>32 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>今まで継続的に関わりを必要とする利用者様、家族がいない。</p>	○	<p>自宅や他施設に移られても年賀状や手紙など送っていきたい。</p>
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
<p>○思いや意向の把握</p> <p>33 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の日常生活の中で個人の希望や意向を把握し、カンファレンスで検討に努めている。 又、常に利用者本人の立場に立って考えるように務めている。</p>		
<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>34 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居時に家族から情報を得る以外にも日常生活の会話から、これまでの生活環境を伺う。家具、電化製品を持ち込んだり、好みの居室づくりをされている。</p>		
<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>35 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。</p>	<p>介護記録、申し送りの他に連絡ノートなど活用し、情報を共有している。 利用者様のペースを守り、無理強いしないように心掛けています。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>36 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回職員全員参加でカンファレンスを実施しアイデアを出し合い、ケアマネの助言を受けケアプランを作成している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	対応できない変化が生じた時は介護計画支援専門員と共に現状に即した新たな計画を作成し対応している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	1人1人個別に毎日の生活の様子を記録に残し、職員どうし情報を共有している。1ヶ月ごとに評価を行ない、カンファレンスで情報交換をし見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物や通院など本人の家族の状況に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防への避難訓練をお誘いし指導して頂いている。年2回定期的に利用者を含め避難訓練に協力していただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在希望されている方はいない	○	必要性が出た場合ケアマネジャー等で話し合いを持って頂き、すみやかに対応出来るようにしたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	利用者の介護保険更新などで連絡訪問を受けているが、ケアマネジメントなどには参加していない。運営推進会議に出席して頂き助言などいただいている。	○	必要性に応じてこれから検討していきたい。 地域包括支援センターの職員と情報交換し、協力関係を築いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>かかりつけの医師に定期的に日常の健康等について相談を行っている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>皮膚科は往診をお願ひし、入居者の負担を軽減している。歯科は入居者が受診しやすいように対応して下さっている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>かかりつけの医療機関で、個人別に相談されているが、気軽に話す看護職はいない。</p>	○	<p>看護職の方に、利用者の方を知って頂けるよう、取組んでいきたい。</p>
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院前での生活の情報を病院関係者と交換したり、面会に行き状態を把握している。家族と主治医、ホームとで連絡をとり合い、早期退院に努めている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>本人や家族の希望を重視し、主治医とも話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療機関と相談し、本人・家族の希望を重視し、ホムで出来る限りの対応に努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族や関係者間で話し合いを行ない対応希望などを行なえるように努め、住み替えによるダメージを少なくしている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者それぞれの性格などを考慮しながら誇りやプライバシーを損なわないように声かけに気をつけている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>希望を出し易い環境や話を傾聴し、職員の意見を押し付けないように努めている</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者のペースを大切にしながらも、一日の流れの中に、それぞれ役割りを持って頂き生きがいや喜びを感じてもらえるように支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>洋服等、好みのものを選んで頂き、鏡で姿が確認できるよう各居室に鏡を置いている。希望時に一緒に、近隣の美容室に行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>台所仕事が好きなお方などに参加して頂き調理や味見を一緒に行ない、配膳準備片付けに参加して頂いている。強制にならないよう心がけて行なっている。</p>	○	<p>片付けは決った人が行なっており他の入居者にも参加していただけるように努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>55 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>利用者の事情、好みに合わせておやつ等を楽しんでいる。お酒については、正月など季節の行事等に飲まれている。また希望があった際は職員と買い物に出かけて好きなお菓子等を購入している。</p>		
<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>56 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄表を使用し、個人別に排泄パターンに合わせた誘導声かけを行ない、オムツを使用せずにトイレでの排泄に努めている。また自然な排便を促す為に運動や水分摂取を促している。</p>		
<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>57 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>曜日、時間を決めて入浴している。GH側の都合で定時以外での入浴は限りが状態だが、事情や希望があった際は可能な限り応じている。</p>	○	<p>設備、人員などを充実させ、今後も希望を取り入れていけるよう努めたい。</p>
<p>○安眠や休息の支援</p> <p>58 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>その日の体調を把握し、1人1人が安眠できる環境づくりをしている。また不眠につながる昼寝を過ぎないように注意している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>59 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>利用者自身の意思や生活歴を考慮して掃除や調理、配膳等を手伝っていただいている。また畑仕事や金魚の餌やり等運動を行ないリハビリの目的も兼ねて行なっている。</p>	○	<p>役割の奪い合いによるトラブルが起きる事があるが、職員が間に入り一緒に行動することで解決している。</p>
<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>60 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現金の所持を希望された入居者には、所持していただいている。金額は自立度に応じて調整し適宜所持残金を帳簿と確認している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>61 ○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>優先的に外出できる曜日をつくって散歩や買い物に出かけている。予定外の外出希望があった場合でも可能な限り応じている。</p>	○	<p>週に1回職員と入居者が一緒に買い物に出かけて、ホームで食べる食材を購入している</p>
<p>62 ○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>月に1度、動物園や花見、梅狩りドライブに出かけ、季節感を感じてもらえるよう努めている。</p>		
<p>63 ○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望があった際は即応し、自ら電話をかける事が出来ない方については職員が取り次いでいる。また、手紙についても、入居者が書いたものを一纏めにポストに投函しに行っている。</p>		
<p>64 ○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>訪問時には明るく気軽に話せる雰囲気作りを心がけている。家族、入居者、職員が食堂にそろってお茶を飲みながら談話することもよくある。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
<p>65 ○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束を行わないよう見守りに努めており、現在身体拘束は一切行っていない。</p>	○	<p>日々のケアの中で危険を未然に回避する事に重点を置き、身体拘束をやむを得ずに行わざるを得ない場合の注意事項を確認している。</p>
<p>66 ○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>防犯の為、夜間玄関は施錠しているが、日中は常に開放し、自由に出入り出来るようにしている。外に出る時は必ず職員が付き添っている。</p>	○	<p>玄関の扉には圧迫感や威圧感など、違和感がないように風鈴をつけ出入りを把握している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>プライバシーに配慮し、入室の際は必ずムクや声かけをしている。常にフロア全体を見渡せる場所に職員を配置するようにし、入居者の所在を把握している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>本人の意思や状態に応じて取り扱いをしている。また、使用の際はスタッフ見守りの下で行なっている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>定期的に避難訓練を行ない、入居者職員の等に避難の手順等事故についてはヒヤリハットを使用し、未然防止に努めている。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急搬入マニュアルを作成し、備えている。</p>	○	<p>応急手当や初期対応の受講は受けているが、定期的な講習等は行われていない為、取り組んでいきたい。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練には入居者も参加している。又町内会に参加し、協力を図っている。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>予測されるリスクについて、来訪した家族に普段の様子とともに説明している。来訪されなかったり、急を要するものについては電話連絡をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行ない、健康状態の把握を行なっている。体調の変化や異常が 見受けられた場合、引き続き時や連絡ノート を使用して全員に周知している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者1人1人の服薬リストを作成し、目で分かる ようにしている。 薬のセットをする職員と手渡す職員を別々にして 二重にチェックしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘症の入居者には水分摂取表を用いて、水分 摂取に努めると共に乳製品や寒天などの食品での 自然な排便を促している。また各入居者に合わせた 運動も行なっている。便秘が続く方は医師に相談し 適切な下剤調整を行なっている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に口腔内清浄を促し、行なっている。 義歯を使用している入居者には、毎日就寝前に 洗浄剤を使用し洗浄消毒している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取表をとり入れ管理している。 食べる量については個々に摂取量を把握し 提供している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	ホームへの出入りの際は必ず手洗い・消毒を行な っている。調理の際は特に念入りに行ない、必ず目 に入る場所にウイルス感染注意喚起するホスターを 張り、気をつけている。また調理法方も考慮して いる。	○	入居者、職員は留意して手洗い、消毒等を行 なっているが、来客者やその方々による差 入れ等外から持ち込まれるものに対して対応 が十分とは言えず検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾、まな板は毎日漂白し、冷蔵庫は定期的に清掃するなど衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	正面玄関周りなどに花を置いたり、玄関の中には絵を飾り、生活感を感じていただけるように工夫を行なっている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は入居者の手により整理されており花や絵、写真が飾られ、気持ちよく過ごせるように配慮している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間が居室以外に和室、リビング、食堂とあり、各自好きな場所で過ごしていただいている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各自使い慣れた品、見なれている品、好きなものを持ち込み、思い思いの空間を作り上げている。また必要なものは家族と相談し購入している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室温の温度管理は、こまめに確認し調整を行なっている。換気については入居者の状態をみながら行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下はもちろん、各場所に手すり、滑り止めを設置し、居室の物干しホルの高低も個別で調節するなど工夫を行なっている。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>毎日掃除を行ない、室内は清潔に保ち、落ち着いた環境を維持している。汚れ、シミなどの混乱を招くものはすぐに補修し、すみやかに対応している。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物南側には庭、畑を作り入居者が中心となり草取り、水撒きを行ない、園芸活動に努めている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<ul style="list-style-type: none"> ○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<ul style="list-style-type: none"> ○①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者が人生の最後の数年を穏やかに安心して生活をしていただけるように心がけています。また、認知症を患いながらも、不安の少ない生活を提供していくことは、スタッフの努力で可能であると考えています。

生活の中に「ゆっくり、楽しく、一緒に」を取り入れ目標として努力をしています。